

主のご降誕をお祝い申し上げます。

今年は何となく平和について考え、行動することを強く求められた一年でした。平和は私たち一人ひとりが創り出すものだと思われ、気づかされました。その道は平坦ではありませんが、闇の中に灯された幼子イエスからの光を人から人へとつなぎ、勇気を出して希望のうちに新しい一歩を踏み出したいと思えます。

いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。

「ルカ 2：14」



日本カトリック映画賞

晴佐久 昌英 SIGNIS JAPAN 顧問司祭 / 東京教区司祭

日本カトリック映画賞は、私たち SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）が、年に一度、キリスト教の愛の教えに基づく福音的な映画を選び、その監督に贈る賞です。

キリスト教の愛の教えとは、すべての人は神に愛されている神の子であり、イエスが人々を愛したように互いに愛し合えというものです。

イエス・キリストは、中でも特に貧しい人、抑圧された人、排除された人、病気の人、障害を持つ人、罪人など、社会的に弱い立場にある人々を家族のように受け入れ、すべての人をわが子として愛する神の親心を告げ知らせ、実際に自らの命までも捧げる十字架の死によって、神の愛を証しました。

これまでの授賞作品はいずれも、弱く小さな一人ひとりの人間を大切に、人間愛をテーマとするものです。それらはイエスにおいて現れた神の愛に通ずるものであり、私たちはそのような作品を「福音的映画」と呼んで高く評価してきました。

映画は、人種や言語、宗教を越えて、多様な人々を共感によって結び、真に普遍的なメディアです。排他的な原理主義と、無知による暴力が広がる現代社会にあって、私たち SIGNIS JAPAN は、映画によって互いに理解し合い、映画によって愛と平和の文明を造りだすことができると信じています。

福音的映画を選び、賞を差し上げて応援することで、キリストの普遍的な愛の教えを広め、人々の幸いに少しでも貢献したいというのが私たちの願いです。

シグニス一日合宿

10月12日カトリック多摩教会で SIGNIS 一日合宿があった。泊まり込みでないのに「合宿」というのは矛盾しているとも指摘されたが、普段の定例会が行事などで追われるのに対してそこでは話せないことをじっくりと話し合ってみようという思いで持たれる集まりであった。参加者は晴佐久神父さんをはじめ9名とちょっと少なかったのが残念であった。

午前中は「SIGNIS でこんなことができたらいね」の分かち合いであった。個人的に振り返る時間を少し持ったあとに参加者全員の夢や抱負が語られた。主なものを拾ってみよう。

「映画賞の上映会をもっといろいろなところでできたらいい。東京以外の教区で上映会をしたり、あるいは小教区の教会で少人数でもできるといい。」

「例えば小教区でする黙想会や講演会の話のよかったものをネット上で公開するっていうのはどうだろうか。ダイジェスト版を作って観たい人、聞きたい人はさらに聞けるような構造にする。」

「小教区の広報担当者ともっと密接な繋がりをもち、そのニーズに応えられるとよい。」

こういう建設的な意見がほとんどであったが、中には「今の状態で手一杯でこれ以上何をするの」という意見や「中央協が退会されたのが残念」というのもあった。

午後からは「私と SIGNIS」というテーマでの話し合いがあり、それぞれ SIGNIS とどのように出会い、そこでどのように成長してきたかということが分かち合われた。

出会いはそれぞれ異なっていたが、誰もが自分で進んで参加したというよりも、招かれたというか呼ばれたというか、不思議な出会いがあったようである。

話はその後、自分が薦めたいような映画の話になり、さらに「映画賞」を選ぶときの基準の話となって、また一段と盛り上がった。

キリスト教と直接は関係ない映画の中に福音を見出すということこそ、カトリックの普遍性を示しているんだという晴佐久神父さんの指摘も印象に残っている。
 （土屋）



シグニスアジア会議報告

2015年8月24日(月)～28日(金)の5日間、スリランカ・ネコンボ市にて「ソーシャルメディアと家族の価値－挑戦と戦略－我々はどこに向かうのか」のテーマの下、シグニスアジア会議が開かれ、14カ国総勢50名が参加して熱心な話し合いが持たれました。日本からは、事務局長(町田)と、カトラジ!の若者を代表して山崎薫樹氏が参加しました。



日本、韓国、インドネシア、インドからの現状報告では、日本での「大阪スマホサミット(2014年11月)」に高い関心が示され、またスリランカの若者・母親・父親も加わったグループディスカッション、ワークショップは大変新鮮で印象的でした。

シグニスワールド事務局からは、ジャーナリズムデスクの設置経緯と目的の説明他、助成金の仕組みについて、またアジア事務局からはプロジェクト申請の方法について説明がありました。プロジェクト推薦では日本からの助成申請1件(WEBマガジンの発行)が無事を通り推薦されました。各国からのカントリーレポート、各地域(東アジア、東南アジア、南アジア)共同プロジェクトの現状報告他、来年のアジア会議ホスト国にミャンマーが名乗りを挙げ、全会一致で決定しました。

最後にスリランカ宣言が採択され、ソーシャルメディアは人々をつなぎ、関係性を築く反面、人々を分断し、有害な効果も生じさせることもあるが、恐れずに活用し、一致、愛、平和、調和、家族間理解を促進し、価値観と共通善に基づいた平和な家庭と社会を築くための「つなげる力」としようの思いを皆で共有しました。

「言論の自由」「信教の自由」のアジア諸国の現状は厳しい中で、日本の教会もようやく声明等を正々堂々と発言できるようになったのはとても嬉しい。シグニスの仲間との情報や心情の共有・連帯の中で、この自由を死守していくことの大事さを改めて思い知ることができたアジア会議でした。初参加の山崎さんは、「宗教とSNS」についての各国からの発表を聞いて自分の中で新しい気づきがあったと感想を述べてくれました。

(町田事務局長)



写真はワークショップに参加した若者たち(上)と、開催前夜の歓迎ミサ後にコロombo大司教のマルコム・ランジス枢機卿とシグニスのメンバー(下)。

映画を自主上映しませんか？

今年シグニス ジャパンでは、日本カトリック映画賞の他に「シグニス平和賞」を創設し、第一回授賞作品として「石川文洋を旅する(大宮浩一監督)」を選定しました。5月の映画賞上映会では時間の関係で上映できませんでした。是非この作品を多くの方と分かち合いたいという思いが強く、8月23日(日)日野市七生公会堂にてシグニスメンバーを中心とした有志での自主上映会を行いました。上映会の宣伝は、シグニスweb、東京教区ニュース、平和旬間他、日野市報、町内の掲示板、自治会の回覧など、多方面にお願いしました。苦労はありましたが、当日は近隣小教区の方もお手伝い下さり、手作りの温かな雰囲気の上映会になりました。多くの方が、沖縄、ベトナム戦争、また今、日本が向かっていることに、それぞれの感想を寄せて下さいました。「映画を見てほしい人」と「映画を見たい人」が繋がれば、小さな会場でも、いい上映会ができることを実感しました。

シグニスではこの経験を生かして、全国で自主上映のお手伝いしたいと考えております。これまでにカトリック映画賞/シグニス平和賞に選ばれた作品を中心に、私たちのネットワークを生かして、監督、配給会社へのご紹介他、上映方法、チケット販売の宣伝など、必要に応じて支援させていただきます。ご興味のある小教区、修道会、またグループの方は、是非シグニスまでご連絡下さい。

この上映会に関わって下さいました多くの方々はこの場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

(泉 カトリック高幡教会所属)

賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

私たちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。

会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費一口 3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。

どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 千葉茂樹